

児童養護施設におけるマルトリートメント防止に向けた予備的研究（第2報）——「適切な処遇」のイメージ及び職員のメンタルヘルスに関連する要因の分析

新潟医療福祉大学社会福祉学科・伊東正裕, 松本京介

【背景】

児童養護施設におけるマルトリートメント(不適切な処遇)の防止は重要な課題である。そのための予備的研究として、児童養護施設に勤務する職員のマルトリートメントについての認識を把握する目的で2回のグループ・インタビューを行い、前回の本学会学術集会において第1回インタビュー調査について報告した。ここでは、児童養護施設におけるマルトリートメントの防止のためには、職員同士の良好な関係や、対人援助者としての気づきを深める研修の機会、管理職の役割の自覚などが必要とされていることが示唆された¹⁾。

今回の報告は、第2回のグループ・インタビュー調査の報告である。第2回のインタビューは、職員はどのような処遇を適切な処遇と考えているのか、その前提となる職員のメンタルヘルスにはどのような要因が関わっているのかを明らかにすることを目的として実施した。

なお児童養護施設における援助に関する先行研究には参考にすべき点も多いが、現場の職員の日々の経験や切実な思いに基くマルトリートメント防止に関する実際的な研究は見当たらなかった²⁾³⁾。そこで児童養護の現場で働く職員の思いを明らかにし、マルトリートメント防止に向けた具体的な方策を講じる一助とするため、児童養護施設職員の協力を得て調査を行ったものである。

【方法】

児童養護施設職員を中心に、半構造化されたフォーカス・グループ・インタビューを行った。インタビューでは、各参加者が、適切な処遇を行っていると考えた身近な職員の行動上の特徴や、自身や同僚のメンタルヘルスに関連する要因などを中心に、日頃の思いを自由に語ってもらった。

参加者は6名で、保育士3名、児童指導員(社会福祉士)2名、臨床心理士1名であった。内5名は児童養護施設に勤務していた。1名はインタビュー当時児童相談所勤務であったが、長く児童養護施設に勤務した経験を持つ職員であった。

インタビュー内容は参加者の同意を得て全て録音し、逐語録を作成した。研究者2名が録音を聞き、逐語録を熟読し、参加者の発言の意味するところから従ってコーディング、カテゴリー化を行った。分析ソフトはNVivo8を用いた。

【結果】

1. 「適切な処遇」の具体的なイメージ

各参加者が適切な処遇を行っていると考えた職員の特徴から、適切な処遇についての具体的なイメージが明らかにされた。抽出されたカテゴリーは、【子どもの自己決定・主体性の尊

重】【自然で柔軟な態度】【冷静な判断と対応】【常に子どもの味方であること】【保護者との関係作りの巧みさ】【保護者との節度ある関係】【チーム内の役割意識】【チーム員の信頼感】【後輩への肯定的で臨機応変な指導】の9つであった。

2. 職員のメンタルヘルスに関連する要因

職員のメンタルヘルスを増進させるものとして【同僚との良好な関係】【信頼できる人との会話】【上司の気遣い】【趣味の充実】の4つに加え、児童養護に特有の【子どもの成長の実感】【日々の子どものふれあい】【子どもに必要とされること】の3つのカテゴリーが抽出された、またバーンアウトなど、職員がメンタルヘルスを崩す要因として【仕事量の多さ】【困難事例の増加】【同僚との不安定な関係】【上司との希薄な関係】【本人の傷つきやすさ】の5つのカテゴリーが抽出された。また養護の仕事に特有の難しさとして【外部からの攻撃】【私生活との切り分けにくさ】の2つが抽出された。

【考察】

適切な処遇の具体的なイメージは、子どもや保護者との望ましい関係だけではなく、【チーム内の役割意識】【チーム員の信頼感】【後輩への肯定的で臨機応変な指導】のような職員同士の関係も含んで捉えられていた。児童養護における援助が、職員チームによる処遇を中心に行われていることの表れと考えられる。それは、職員のメンタルヘルスを維持・増進する要因として【同僚との良好な関係】【上司の気遣い】が、メンタルヘルスを減退する要因として【同僚との不安定な関係】【上司との希薄な関係】が挙げられたこととも密接に関連する。一方、【子どもの成長の実感】【日々の子どものふれあい】【子どもに必要とされること】が仕事のやりがいとなり、職員のメンタルヘルスの向上に繋がっていた。反面、近年の【仕事量の多さ】【困難事例の増加】による消耗や、児童養護に特有の【外部からの攻撃】【私生活との切り分けにくさ】がメンタルヘルスを脅かしていることが明らかになった。

【結論】

児童養護はチームによる援助であることから、マルトリートメントの防止には、職員同士の信頼関係やチーム内の役割意識の向上を図る必要があること、適切な処遇の前提となる職員のメンタルヘルスの維持・増進には、児童養護の仕事のやりがいを実感すると同時に、近年の状況の変化や児童養護に特有の困難さへの対処が重要であることが示唆された。

【文献】

- 1) 伊東正裕・松本京介：児童養護施設におけるマルトリートメント防止に向けた予備的研究。新潟医療福祉学会誌, 10-1, 51, 2010.
- 2) 村瀬嘉代子監修, 高橋利一編：子どもの福祉とこころ——児童養護施設における心理援助。新曜社, 2002.
- 3) 長谷川真人・堀場純矢編著：児童養護施設の援助実践。三学出版, 2007.

*本研究は新潟医療福祉大学倫理委員会の承認を受け、平成21年度学内研究奨励金(萌芽研究)によって行われた。